

特集



地球温暖化防止技術セミナー —明日からでは遅すぎる—

後援 大阪商工会議所・NPO法人 エコデザインネットワーク

あいさつ

事業企画委員会 委員長 佐々木孝友

只今から「地球温暖化防止技術セミナー」を開催させていただきます。私は当協会常務理事で事業企画委員会の委員長をしております佐々木でございます。最初に当協会理事長の野村先生からご挨拶を申し上げます。



事業企画委員長 佐々木孝友氏

生産技術振興協会 理事長 野村正勝

理事長の野村と申します。本日はセミナーにご参加いただきまして、ありがとうございます。生産技術振興協会は昭和24年に大阪府の認可を受けて発足した大阪大学の関連法人で、非常に古い歴史を持っています。当協会は大阪大学の先生方の研究を事

務的な面からサポートさせていただいております。同時に「生産と技術」という雑誌を年4回刊行しておりまして、大学の先生方に配布するとともに、150社の企業にも送付させていただいております。本日は私どもの重要な行事の1つでありますハイテクセミナーとして、「地球温暖化防止技術セミナー」を開催させていただきます。佐々木先生の下で、今回は加賀先生にご担当していただきました。ご講演をいただくことになった5名の先生方には、誠にありがとうございます。また、今回は特別協賛企業ということで9社の方々に大変お世話になっております。あらためまして御礼を申し上げますとともに、昨年に続き素晴らしい会場をお貸しいただきました島津製作所の皆様に心から感謝を申し上げます、私の挨拶と致します。



理事長 野村正勝氏

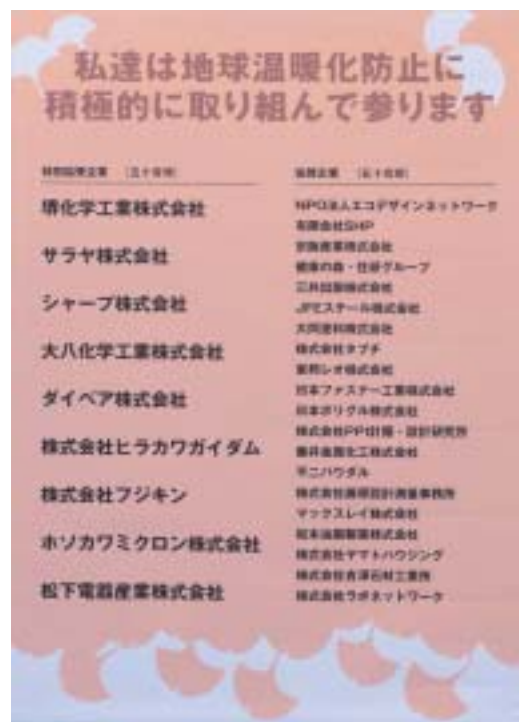
大阪大学大学院工学研究科 教授 加賀昭和

大阪大学環境エネルギー工学専攻の加賀でございます。今回のセミナーの企画を担当させていただきました者の一人として、一言ご挨拶を申し上げます。来年から京都議定書の第1約束期間ということであり、温室効果ガス排出量の具体的なデータを出していくことになっております。そういう意味で、今回のテーマ「地球温暖化防止技術」は非常にホットな話題であります。私自身は議定書の目標数字の達成は厳しいと思っていましたが、今年に入って、IPCC(気候変動に関する政府間パネル)の第4次報告によって、地球温暖化が現実のものになってきたという認識が世界中に広まりました。それを受けて2035年に温室効果ガスの排出量半減というポスト京都議定書の方向も示され、さらにはIPCCと、その問題の広報活動に功績があったとしてゴア元副大統領がノーベル平和賞を受賞されました。まさに地球温暖化問題は、世界を挙げて取り組む最大の課題になったという感があります。ご承知のようにCO₂を大量に排出するようになったのは、それまでバイオマスのような再生可能エネルギーを細々と使っていたのが、太陽エネルギーの蓄積物である化石燃料を掘り出して使うようになって以来、構造的に最初から持っていた欠陥ということで、それが今になって顕在化してきたことかと思われま。政治や経済を含めあらゆる分野で取り組まなければならないことですが、われわれ技術分野が根源的に持っている問題ということで、他の分野の環境問題とは少し違うことといえます。中でも技術文明社会の粹組の欠陥という面から、技術分野で仕事をするものにとっては使命感を持って取り組まなければならない課題かと思ひます。そして今後何十年間でCO₂を大きく減らすことができれば、技術文明が一皮むけた、1ランクアップしたものになったといえるかと思ひます。



セミナー企画委員 加賀昭和氏

多くの技術を総動員しなければならないことですが、特にこの問題のキーになる技術「エネルギーをつくる」「エネルギーを供給する」という立場から、原子力発電、バイオマスエネルギー、太陽エネルギー(太陽電池)の専門分野の先生方を講師としてお招きいたしました。また、電力供給ということで電力事業分野からも講師をお招きいたしました。さらには、基幹産業で最もエネルギーを使う、エネルギー多消費型といわれている製鉄分野からの講師をお招きしております。講師の先生方には、各分野から温室効果ガス削減の技術の現状と将来展望について分かりやすくお話をいただけるものと思っております。本日のセミナーには、スーパーサイエンススクール指定校の府立天王寺高校の生徒さん、府立住吉高校の生徒さんたちにも来ていただき、講演を聴いていただくことになっております。今回のセミナーが皆様方のお仕事の上で、あるいは高校生諸君にとって将来の進路を考える上で役に立つものになればと思っております。本日はセミナーにご参加いただきまして、ありがとうございます。



30社の協賛企業